東京都立三鷹中等教育学校　後期課程進路通信「はるつげくさ」

春 告 草

第 154 号　令和元年 10 月 2 日　進路指導部発行

センター試験出願は149名！　出願率は99．3%　ほぼ全員が出願

センター出願が月曜日から始まった。現役生の出願は在籍校経由で行うので、校内では先週締め切り、志願票の点検、取りまとめを行った。出願率は99．3%で、６年生のほぼ全員が出願している状況である。

今回はセンター試験としては最後で、21年度入試からは新テストが行われる。国語、数学での記述問題導入、英語外部検定の併用を盛り込んだ「大学入学共通テスト」が始まるなど、新しい学力像に基づいた入試改革が行われているが、共通テスト関しての出願手続きや日程などに関しては、現行と大きな変更はない。

以下に本校６年生の状況をレポートする。５年生は来年度の科目選択決定に向け、進路を絞り込まなければいけない時期になった。先輩方の状況も参考にしながら、慎重に考えていこう。

受験科目登録

地歴2科目は2割強、理科②2科目は3割6分

センター出願にあたっては受験教科・科目の事前登録を行うが、地歴・公民、理科は受験科目数や受験パターンにより、内訳が細かく分かれている。志願票裏面（第Ⅱ面）を右図に示した。

６年生の受験教科登録状況は右下のグラフに示した通りである。

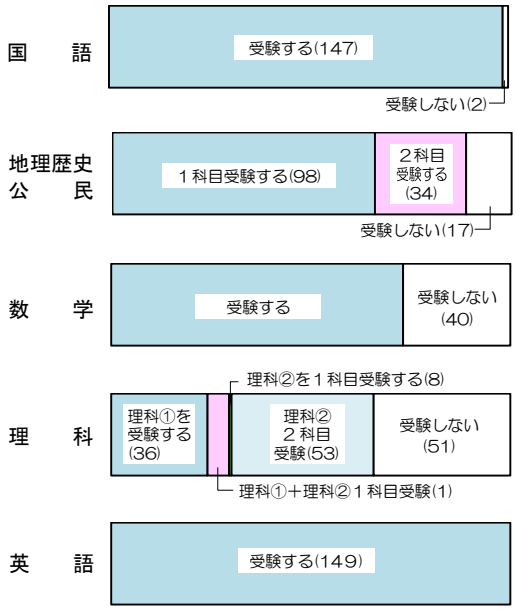
国公立大文系志望者は、地理歴史・公民は２科目受験が基本で、本校では出願者全体の約23%がこのパターンで登録した。ただし、大学・学部によっては、他教科と合わせた中から３科目を課しているケースもある。地歴・公民の１科目登録者は全体の約66%で、これには私大文系希望者、国公立大理系志望者の多数が含まれる。

理科の受験科目指定は複雑で、Ａ：理科①を受験、Ｂ：理科②を１科目受験、Ｃ：理科①＋理科②１科目受験、Ｄ：理科②２科目受験　の４パターンから１つを選ぶ。Ａは国公立大文系受験の基本パターンで約24%となっていて、地歴・公民２科目受験者数とほぼ一致する。理科①は理科基礎４科目の中から２科目を受験する。文系で理科２科目というと科目負担を気にする人もいると思うが、試験時間60分で２科目を解答するので問題量は少なく、内容は基本問題が中心である。出題内容も落ち着いてきているので、しっかり準備すれば「満点」のチャンスも十分にある。今年度の本校生徒の成績を見ても、物理基礎、化学基礎、生物基礎で満点（50点）はそれぞれ、２人、10人、３人となっていて、45点以上（満点を除く）は物理基礎６名、化学基礎12名、生物基礎11名という結果が出ている。受験者

教科名	選択記入欄	
国語	A…受験する X…受験しない	□
地理歴史 公民	A…１科目受験する B…２科目受験する X…受験しない	□
数学	A…受験する X…受験しない	□
理科	A…理科①を受験する B…理科②を１科目受験する C…理科①を受験、理科②を１科目受験する D…理科②を２科目受験する X…受験しない	□
外国語	A…受験する X…受験しない	□

志願票裏面の受験教科登録欄　□の中にA，B、Xなどを記入す

受験教科登録状況



数は、それぞれ22名、49名、30名であるから、優秀な成績だ。文系志望者にとって理科①はセンター試験での「稼ぎどころ」と考えて、国公立大受験に挑もう。一方、国公立大理系志願者はDの理科②２科目受験が基本パターンで、約36％を占める。これは昨年に比べ13％のアップで、理工系志願者が増加した結果である。Ｂパターン理科②１科目、Ｃパターン理科①＋理科②１科目はそれぞれ少数派となっている。

他教科では、国語を受験しないのは２名だけで理系志望者もほとんどの人は受験する。理系志望者は国公立大受験を前提に受験プランを立てるケースが多いためだ。数学は受験しないと登録した人は40名で、私大文系志望者の多数が含まれる。英語受験者は当然であるが、100％となっている。

2学期以降の進路行事、入試日程など

時期		校内行事など	20年度入試関連 6年生向け	21年度入試関連 5年生向け
応用力養成期	10月	中間考査(8～11) 6年学診テスト(15,16) ★5年選択科目予備調査票提出(15) 5年修学旅行(22-25)	●センター試験出願(10 日まで) センター試験100日前(11) ●センター試験確認はがき受領(下旬)	▼共通ID発行申込書提出
	11月	5、6年学診テスト(7,8) 4年学診テスト(8) 4、5年大学模擬講義(12,14) ★5年選択科目本調査票提出(20)		▼共通ID発行申込み 英語受験状況確認システム運用開始 (18 日以降、実際にはID受領後となる)
	12月	期末考査(2-5) ★5年選択科目決定(17)	●センター試験受験票受領(中旬までに) 調査書発行申請 ●センター試験会場下見 募集要項・願書入手 出願手続き準備	
実戦力養成期	1月	4年学診テスト(21) 5年学診テスト(21,22)	●センター試験(18,19) ●データリサーチ(20) ●データリサーチ返却(24) 私大出願 国公立大出願(1/27-2/5) 私大入試開始	▼共通ID通知はがき受領(中旬までに) ▼受領後、確認システムでパスワードの変更、メールアドレスの登録を行う ▼共通ID追加登録(1/27-9/10)
	2月	5年学診テスト(12,13) 4年セカンドステージ論文発表会(25)	国公立大前期日程試験(25 日以降)	
	3月	学年末試験(3-6) 卒業式(7) 4、5年基礎学力試験(14) 受験報告会 修了式(25)	公立大中期日程試験(8 日以降) 国公立大後期日程試験(12 日以降)	
新年度	4月			資格・検定試験受験期間A(-7 月まで)

●印…センター試験関係の手続きなど　▼印…共通ID発行関係の手続きなど　★印…来年度選択科目関係の手続きなど(5年生)
共通IDを含め、21年度以降の入試システムについては、春告草152号などの記事を参照してください。

2020年度大学入試の動向は？

暑かった9月が過ぎ、鷹校祭の象徴だったゲートも撤去された。来年はどんなゲートにしようかと、委員会のメンバーは考え始めているのかも知れないが、10月になり、爽やかな季節がやってきた。「勉学の秋」到来である。中間試験も近づいてきているので、ここは気持ちを切り替えて、落ち着いて勉強に取り組もう。

さて6年生は、いよいよ受験勉強の大詰めにさしかかる。志望校や併願校の難易度、志望動向などが気になるが、あらためて今年度の大学入試を振り返り、来年度入試に向けての展望を考えてみよう。

また、5年生は来年度の科目選択を検討し、決定しなければいけない時期になってきた。最適な科目選択が実現できるよう、最近の大学入試事情をインプットしておこう。

データは、旺文社教育情報センター発表のものを参照した。

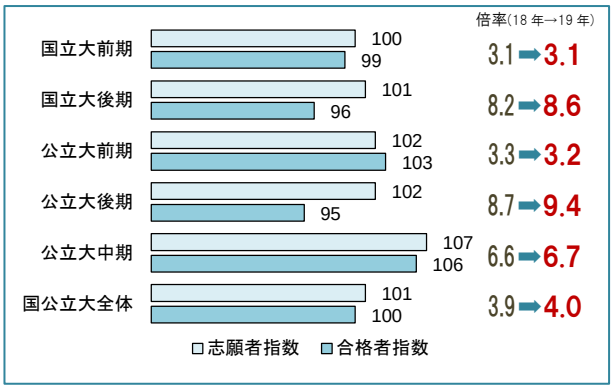
前年の私大難化＋センター易化で国公立後期、公立中期まで粘る出願に！

19年度の国公立大一般入試の結果は、全体集計では前年度に比べ、国立大が「志願者：前年並み、合格者1％減」で倍率は変わらず4．2倍、公立大は「志願者3％増、合格者2％増」で18年4．7倍→19年4．8倍と倍率はアップした。

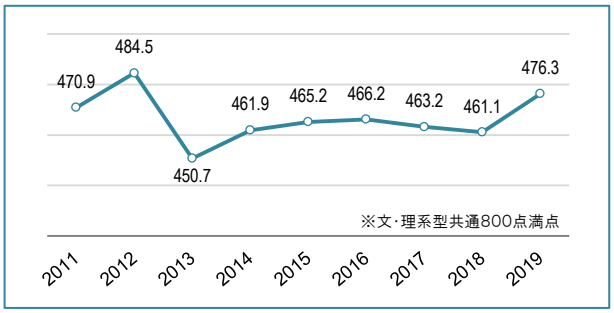
日程別にみると、推薦・AO枠拡大に伴う募集人員減もあり、後期は国立、公立共に倍率はアップした。公立化2年目の諏訪東京理科大、開設2年目の小松大などの新規参入で募集人員が増加した公立大中期でも、倍率はややアップした。

私立大難関～準難関校の合格者絞り込みによる難化の警戒に加え、センター試験の国語（前年比+16.9）、英語リスニング（同+8.7）の易化が、出願を後押しした形で、国公立大志望者が後期・中期日程試験まで粘ったようだ。安全志向も働き、中堅国公立大を中心に出願者が集まり、特に少数科目で受験できる公立大で倍率アップがみられた。

2019年度国公立大一般入試日程別志願者・合格者動向



センター試験5教科6科目総合平均点の推移



大学入試センター発表の科目別平均点と受験者数から、5教科6科目（地歴・公民合わせて1教科1科目として100点、理科1科目として100点の800点満点）の加重平均点で集計。

私大入試は志願者6％増、合格者3％増も「安全校なき入試」に

一方私立大はというと、一般入試結果調査（549大学集計：志願者385．7万人）によると、前年度に比べて「志願者6％増、合格者3％増」で、倍率は全体で18年4．1倍→19年4．2倍とアップした。入試方式別では、各大学の独自入試は「志願者3％増、合格者2％増」で、倍率は4．6倍→4．7倍、センター利用（センター併用も含む）も「志願者12％増、合格者6％増」で、倍率は3．4倍→3．6倍と共にアップした。センター試験の易化が、事後出願の大学や方式への出願を後押しした結果となっている。

このように、私立大一般入試の志願者増は昨年とほぼ同程度だったが、細かくみると「難関～準難関校の志願者が減る一方、中堅上位～中堅校への志願者が増えた」ことが、今年の入試ではみられた。

18年度入試では、定員超過率抑制のため、募集定員が増えたにも関わらず、合格者数は前年を下回るなどの「合格者絞り込み」が大都市圏の難関～準難関校を中心に行われた。このため、その再現を警戒し、中堅校への併願を増やす傾向が強まった。関西地区では、指定校推薦や公募推薦への出願が激増したこともあり、その結果、推薦合格者の増加が一般入試枠を圧迫し、合格者を減らした大学もあった。

一方、難関～準難関校は敬遠されて、志願者減となった。しかも、定員超過率の制限が据え置かれたため、正規合格者は絞っても、追加合格や補欠合格を多めに出したこともあり、「志願者減・合格者増」で倍率を下げた大学が続出し、

意外な穴場となった。

志願者数上位10大学の入試結果をみても、4大学が志願者減の一方で合格者を絞り込まず、法政大、明治大、早稲田大、近畿大など10大学中8大学で実質倍率がダウンした。

この傾向は難関大に強く現れた。右下のグラフは、文理別・難易ランク別に志願者・合格者の動向を表したものだ。A～Eは第3回ベネッセ・駿台マーク模試での合格可能性60％ラインによる難易ランクで、Aランクは難関校や難関医科大、Bランクは準難関校、Cランクは中堅上位校、D～Eは中堅クラスを指している。

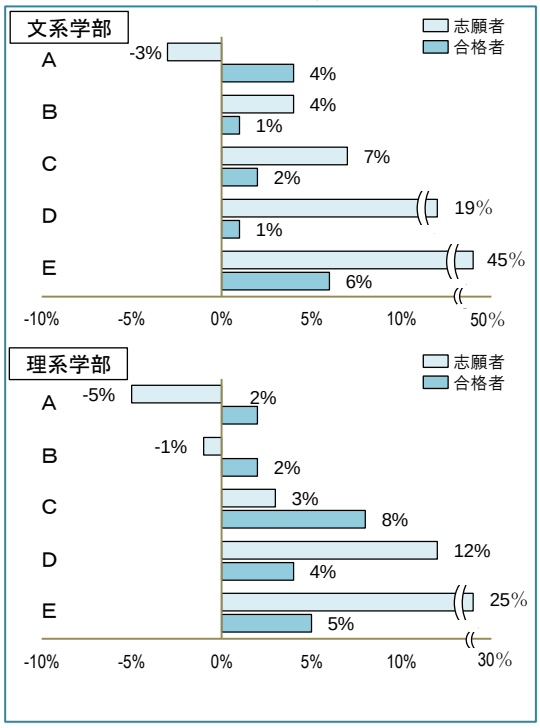
文系はAランクが「志願者減・合格者増」、B～Eランクは志願者の増加率が合格者のそれを上回るが、特にD～Eでは、志願者の爆発的な増加ぶりと合格者増との差が顕著である。一方、理系はA～Bランクが「志願者減・合格者増」、Cランクも合格者増加率が上回り、やはりD～Eランクは志願者が急増し、合格者増加率をはるかに上回った。「安全志向」からA～Bランクを敬遠し、Cランク以降の志望者が、合格確保校として次のランクの併願を増やしたり、志望校をランクダウンした結果、文理ともランクが下がるほど、倍率がアップし、安全校なき入試となった。

私立大志願者数TOP10の入試結果

	大学名	志願者数	合格者数	志願指数	合格指数	実質倍率 19年(18年)
1	近畿大	154,672	27.915	99	108	5.2(5.7)
2	東洋大	122,101	23,868	106	111	※5.1(5.4)
3	法政大	115,447	17,896	94	102	6.2(6.7)
4	明治大	111,755	22,040	93	104	4.8(5.4)
5	早稲田大	111,338	14,566	95	100	7.0(7.5)
6	日本大	100,853	28,689	88	98	3.3(3.7)
7	立命館大	94,198	27,387	96	110	3.3(3.8)
8	関西大	93,452	16,583	101	103	5.5(5.6)
9	中央大	92,686	17,059	105	112	5.1(5.5)
10	千葉工業大	90,873	16,952	115	100	5.2(4.6)

志願者指数、合格者指数とも、2018年を100とした指数。
※＝志願者÷合格者

私立大一般入試　難易ランク別志願者・合格者増減率



センター志願者は減少へ　易化目立つ国語は難化も

今年のセンター試験志願者数は57万6，830人で、前年度比1．0％の減だった。浪人生は増えたものの、18歳人口の減少による現役生の出願が減ったためだ。20年度については、18歳人口がさらに減り、浪人生も減ることから、志願者数は減少することになりそうだ。

難易度は、19年度が全体的に易化傾向になり、平均点が上昇した。中でも、国語、英語リスニングは易しかったので20年度には揺り戻しでやや難化することも考えられる。

文字を読み文章を書く練習を

個別試験に関しては、21年度の入試改革を前に、国公私大とも大きな変更はないが、新しい学力像の中で求められている読解力、記述・論述力などをより重視しようとする動きが出てくる可能性はある。大きなトレンドとして、記号選択や穴埋め問題が減って、記述・論述式の問題が増えていくことになるだろう。これは国語に限らず、他の教科についても注意が必要で、問題文が複雑になり、設問の意図を読み取れるかというところから問われるようになる可能性もある。

これに対する学習対策としては、即効性のある必勝法や攻略法といったものは考えにくい。日頃から新聞や本を読み、内容について頭を使って考え、手を使って文章を書くことを繰り返し実践するように心がけよう。記述・論述式の問題集を使って、単文でもいいので答えを書くトレーニングをすることだ。

20年度入試については、翌年から新制度での入試が始まるため、安全志向がより強まると思われるが、過度な安全志向は、先程の例もあり、逆効果となる場合もある。むしろ、その裏をかくくらいのつもりでいい。自分の第一志望の大学を安全志向で避ける受験生が出てくれば、かえって狙い目になる。

21年度入試から始まる共通テストは、予想得点率50％で問題設計される。60％のセンター試験より難しくなるのは必至だが、試験が難しいほど、学習に時間をかけられる浪人生の方が有利になるはずだ。6年生の皆さんには、決して弱気にならず、強いハートで、これからの受験勉強に向かい、出願プランを立てていってもらいたい。